

授 業 科 目 名	生徒指導(Student Guidance)		
科 目 番 号	9801411	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	通年	曜 時 限	集中
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 (連 絡 先)	京免 徹雄 (人間系棟 A543 Tel 029-853-4590 E-mail: kyomen@human.tsukuba.ac.jp)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	木曜日 14 時 から 16 時		
授 業 の 到 達 目 標	<p>(1) 生徒指導とは何か(意義と原理)について、学校システム全体(学校組織と教育課程)に集団的、個別的方法を位置づけて説明する。</p> <p>(2) 積極的に育てる取り組み(ガイダンス)と即応的に支える取り組み(カウンセリング)がなぜ重要か、それら取り組みを学校システムとしてどのように進めるか、を説明する。</p> <p>(3) 個別に、あるいは学級、学年、学校全体を対象に、児童生徒を育て支える基本的な取り組み方について説明する。</p>		
授 業 の 概 要	<p>生徒指導は、学習指導と並び、学校教育に欠くことのできない教育機能とされている。しかし、この言葉自体は、厳しいつけや問題行動への対応と受けとられることが多く、このような誤解が広く生じたままである。果たして、生徒指導とは何か？児童生徒の学業的、キャリア的、個人・社会的発達と適応はどのように理解されるのか？より实际的に、人はどのように生きる力を身につけ、自らの生き方を方向づけていくのか？この授業では、こうした生徒指導の理論、歴史、児童生徒の抱える困難(自己存在感の危機)、そして私たちがこれから挑戦しなければならない課題とその解決的方策について、基本的な知識・技能を学ぶ。さらに、これからの生徒指導の考え方と取り組みについて発展的、实际的に考察していく。</p>		
授 業 計 画	<p>第1回:これまでの生徒指導①「人格の完成」とは何か(学校教育における生徒指導の意義と原理)</p> <p>第2回:これまでの生徒指導② 生徒指導(概念)の誕生と教師の役割(生徒指導の発展史)</p> <p>第3回:これまでの生徒指導③ 学校教育という組織的取り組み(学校組織・教育課程における生徒指導の位置づけ)</p> <p>第4回:児童・生徒の抱える困難と対応① 不登校</p> <p>第5回:児童・生徒の抱える困難と対応② 暴力行為と非行</p> <p>第6回:児童・生徒の抱える困難と対応③ いじめ</p> <p>第7回:児童・生徒の抱える困難と対応④ 学業問題</p> <p>第8回:挑戦すべき課題① 学校教育の抱える問題と生徒指導の基礎・基本(適応と発達の促進)</p> <p>第9回:挑戦すべき課題② 育てる学級・学校づくり(風土の醸成と育てる活動のカリキュラム化)</p> <p>第10回:挑戦すべき課題③ 育てる2つのアプローチ(生徒指導の日米比較と学校・家庭・地域社会の役割)</p> <p>定期試験は実施しない。</p>		
成 績 評 価 方 法	<p>授業参加度(20%):受講のルールを遵守し、学習課題(グループワークや質疑応答)に積極的に取り組む程度(小レポートなど)を評価する。</p> <p>課題レポート(80%):10回の学習内容に基づいた課題レポートを評価する。</p>		
テ キ ス ト	市販テキストは使用しない。毎回、オリジナルの講義資料を配付する。		
参 考 文 献	生徒指導提要(平成22年3月 文部科学省)(最新版)		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	<p>・これまでの学校生活における生徒指導の記憶を振り返ってみましょう。</p> <p>・生徒指導提要(文部科学省のウェブサイトからアクセスできます)を精読してください。</p>		
受 講 学 生 に 望 む 事 項	<p>・3 分の 2(7 回)以上の出席が単位認定の前提となります。</p> <p>・教育について考えるためには、日々めまぐるしく変化する現代社会について知っていることが重要です。ぜひ新聞等を積極的に読みましょう。</p> <p>・授業で学んだことを鵜呑みにするのではなく、自分の頭でしっかりと考えて消化し、さらに積極的に外にアウトプットしていきましょう。お互いに語り合うこと、それはみなさんの教師としての視</p>		

		野を広げ、実践力を高めることにつながると確信しています。
備	考	旧課程の生徒指導・教育相談Ⅰに対応。

授 業 科 目 名	生徒指導(Student Guidance)		
科 目 番 号	9801421	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	通年	曜 時 限	集中
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 (連 絡 先)	花屋 哲郎		
オ フ ィ ス ア ワ ー			
授 業 の 到 達 目 標	<p>(1) 生徒指導とは何か(意義と原理)について、学校システム全体(学校組織と教育課程)に集団的、個別的方法を位置づけて説明する。</p> <p>(2) 積極的に育てる取り組み(ガイダンス)と即応的に支える取り組み(カウンセリング)がなぜ重要か、それら取り組みを学校システムとしてどのように進めるか、を説明する。</p> <p>(3) 個別に、あるいは学級、学年、学校全体を対象に、児童生徒を育て支える基本的な取り組み方について説明する。</p>		
授 業 の 概 要	<p>生徒指導は、学習指導と並び、学校教育に欠くことのできない教育機能と言われている。しかし、この言葉自体は、厳しいしつけや問題行動への対応と受けとられることが多く、このような誤解が広く生じたままである。果たして、生徒指導とは何か？児童生徒の学業的、キャリア的、個人・社会的発達と適応はどのように理解されるのか？より実際的に、人はどのように生きる力を身につけ、自らの生き方を方向づけていくのか？この授業では、こうした生徒指導の理論、歴史、児童生徒の抱える困難(自己存在感の危機)、そして私たちがこれから挑戦しなければならない課題とその解決的方策について、基本的な知識・技能を学ぶ。さらに、これからの生徒指導の考え方と取り組みについて発展的、实际的に考察していく。</p>		
授 業 計 画	<p>第1回:これまでの生徒指導①「人格の完成」とは何か(学校教育における生徒指導の意義と原理)</p> <p>第2回:これまでの生徒指導② 生徒指導(概念)の誕生と教師の役割(生徒指導の発展史)</p> <p>第3回:これまでの生徒指導③ 学校教育という組織的取り組み(学校組織・教育課程における生徒指導の位置づけ)</p> <p>第4回:児童・生徒の抱える困難と対応① 不登校</p> <p>第5回:児童・生徒の抱える困難と対応② 暴力行為と非行</p> <p>第6回:児童・生徒の抱える困難と対応③ いじめ</p> <p>第7回:児童・生徒の抱える困難と対応④ 学業問題</p> <p>第8回:挑戦すべき課題① 学校教育の抱える問題と生徒指導の基礎・基本(適応と発達の促進)</p> <p>第9回:挑戦すべき課題② 育てる学級・学校づくり(風土の醸成と育てる活動のカリキュラム化)</p> <p>第10回:挑戦すべき課題③ 育てる2つのアプローチ(生徒指導の日米比較と学校・家庭・地域社会の役割)</p> <p>定期試験は実施しない。</p>		
成 績 評 価 方 法	<p>授業参加度(20%):受講のルールを遵守し、学習課題(グループワークや質疑応答)に積極的に取り組む程度(小レポートなど)を評価する。</p> <p>課題レポート(80%):10回の学習内容に基づいた課題レポートを評価する。</p>		
テ キ ス ト	市販テキストは使用しない。毎回、オリジナルの講義資料を配付する。		
参 考 文 献	生徒指導提要(平成22年3月 文部科学省)(最新版)		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省 HP で生徒指導関連の資料(通知や統計データなど)を活用する。 ・不登校などを扱った図書を読む。 ・学習支援など、積極的に学校現場の経験を求める。 		
受 講 学 生 に 望 む こ と	自らの被教育経験に引きつけて、これからの学校教育や教員のあり方を考察してほしい。		
備 考	旧課程の生徒指導・教育相談Ⅰに対応。		

授 業 科 目 名	生徒指導(Student Guidance)		
科 目 番 号	9801441	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	通年	曜 時 限	集中
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 (連 絡 先)	花屋 哲郎		
オ フ ィ ス ア ワ ー			
授 業 の 到 達 目 標	<p>(1) 生徒指導とは何か(意義と原理)について、学校システム全体(学校組織と教育課程)に集団的、個別的方法を位置づけて説明する。</p> <p>(2) 積極的に育てる取り組み(ガイダンス)と即応的に支える取り組み(カウンセリング)がなぜ重要か、それら取り組みを学校システムとしてどのように進めるか、を説明する。</p> <p>(3) 個別に、あるいは学級、学年、学校全体を対象に、児童生徒を育て支える基本的な取り組み方について説明する。</p>		
授 業 の 概 要	<p>生徒指導は、学習指導と並び、学校教育に欠くことのできない教育機能とされている。しかし、この言葉自体は、厳しいつけや問題行動への対応と受けとられることが多く、このような誤解が広く生じたままである。果たして、生徒指導とは何か？児童生徒の学業的、キャリア的、個人・社会的発達と適応はどのように理解されるのか？より実際的に、人はどのように生きる力を身につけ、自らの生き方を方向づけていくのか？この授業では、こうした生徒指導の理論、歴史、児童生徒の抱える困難(自己存在感の危機)、そして私たちがこれから挑戦しなければならない課題とその解決的方策について、基本的な知識・技能を学ぶ。さらに、これからの生徒指導の考え方と取り組みについて発展的、实际的に考察していく。</p>		
授 業 計 画	<p>第1回:これまでの生徒指導①「人格の完成」とは何か(学校教育における生徒指導の意義と原理)</p> <p>第2回:これまでの生徒指導② 生徒指導(概念)の誕生と教師の役割(生徒指導の発展史)</p> <p>第3回:これまでの生徒指導③ 学校教育という組織的取り組み(学校組織・教育課程における生徒指導の位置づけ)</p> <p>第4回:児童・生徒の抱える困難と対応① 不登校</p> <p>第5回:児童・生徒の抱える困難と対応② 暴力行為と非行</p> <p>第6回:児童・生徒の抱える困難と対応③ いじめ</p> <p>第7回:児童・生徒の抱える困難と対応④ 学業問題</p> <p>第8回:挑戦すべき課題① 学校教育の抱える問題と生徒指導の基礎・基本(適応と発達の促進)</p> <p>第9回:挑戦すべき課題② 育てる学級・学校づくり(風土の醸成と育てる活動のカリキュラム化)</p> <p>第10回:挑戦すべき課題③ 育てる2つのアプローチ(生徒指導の日米比較と学校・家庭・地域社会の役割)</p> <p>定期試験は実施しない。</p>		
成 績 評 価 方 法	<p>授業参加度(20%):受講のルールを遵守し、学習課題(グループワークや質疑応答)に積極的に取り組む程度(小レポートなど)を評価する。</p> <p>課題レポート(80%):10回の学習内容に基づいた課題レポートを評価する。</p>		
テ キ ス ト	市販テキストは使用しない。毎回、オリジナルの講義資料を配付する。		
参 考 文 献	生徒指導提要(平成22年3月 文部科学省)(最新版)		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法			
受 講 学 生 に 望 む 事 項			
備 考	旧課程の生徒指導・教育相談Ⅰに対応。		

授 業 科 目 名	生徒指導(Student Guidance)		
科 目 番 号	9801451	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	夏季休業中	曜 時 限	集中(9/12、9/13)
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 (連 絡 先)	宮古 紀宏		
オ フ ィ ス ア ワ ー			
授 業 の 到 達 目 標	<p>(1) 生徒指導とは何か(意義と原理)について、学校システム全体(学校組織と教育課程)に集団的、個別的方法を位置づけて説明する。</p> <p>(2) 積極的に育てる取り組み(ガイダンス)と即応的に支える取り組み(カウンセリング)がなぜ重要か、それら取り組みを学校システムとしてどのように進めるか、を説明する。</p> <p>(3) 個別に、あるいは学級、学年、学校全体を対象に、児童生徒を育て支える基本的な取り組み方について説明する。</p>		
授 業 の 概 要	<p>生徒指導は、学習指導と並び、学校教育に欠くことのできない教育機能とされている。しかし、この言葉自体は、厳しいつけや問題行動への対応と受けとられることが多く、このような誤解が広く生じたままである。果たして、生徒指導とは何か？児童生徒の学業的、キャリア的、個人・社会的発達と適応はどのように理解されるのか？より実際的に、人はどのように生きる力を身につけ、自らの生き方を方向づけていくのか？この授業では、こうした生徒指導の理論、歴史、児童生徒の抱える困難(自己存在感の危機)、そして私たちがこれから挑戦しなければならない課題とその解決的方策について、基本的な知識・技能を学ぶ。さらに、これからの生徒指導の考え方と取り組みについて発展的、实际的に考察していく。</p>		
授 業 計 画	<p>第1回:これまでの生徒指導①「人格の完成」とは何か(学校教育における生徒指導の意義と原理)</p> <p>第2回:これまでの生徒指導② 生徒指導(概念)の誕生と教師の役割(生徒指導の発展史)</p> <p>第3回:これまでの生徒指導③ 学校教育という組織的取り組み(学校組織・教育課程における生徒指導の位置づけ)</p> <p>第4回:児童・生徒の抱える困難と対応① 不登校</p> <p>第5回:児童・生徒の抱える困難と対応② 暴力行為と非行</p> <p>第6回:児童・生徒の抱える困難と対応③ いじめ</p> <p>第7回:児童・生徒の抱える困難と対応④ 学業問題</p> <p>第8回:挑戦すべき課題① 学校教育の抱える問題と生徒指導の基礎・基本(適応と発達の促進)</p> <p>第9回:挑戦すべき課題② 育てる学級・学校づくり(風土の醸成と育てる活動のカリキュラム化)</p> <p>第10回:挑戦すべき課題③ 育てる2つのアプローチ(生徒指導の日米比較と学校・家庭・地域社会の役割)</p> <p>定期試験は実施しない。</p>		
成 績 評 価 方 法	<p>授業参加度(20%):受講のルールを遵守し、学習課題(グループワークや質疑応答)に積極的に取り組む程度(小レポートなど)を評価する。</p> <p>課題レポート(80%):10回の学習内容に基づいた課題レポートを評価する。</p>		
テ キ ス ト	市販テキストは使用しない。毎回、オリジナルの講義資料を配付する。		
参 考 文 献	生徒指導提要(平成22年3月 文部科学省)(最新版)		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法			
受 講 学 生 に 望 む こ と			
備 考	旧課程の生徒指導・教育相談Ⅰに対応。		

授 業 科 目 名	生徒指導(Student Guidance)		
科 目 番 号	9801461	授 業 形 態	講義
単 位 数	1単位	標 準 履 修 年 次	3年次
実 施 学 期	通年	曜 時 限	集中
対 象 学 群・学 類	体育学生主対象		
担当教員(連絡先)	花屋 哲郎		
オフィスアワー			
授 業 の 到 達 目 標	<p>(1) 生徒指導とは何か(意義と原理)について、学校システム全体(学校組織と教育課程)に集団的、個別的方法を位置づけて説明する。</p> <p>(2) 積極的に育てる取り組み(ガイダンス)と即応的に支える取り組み(カウンセリング)がなぜ重要か、それら取り組みを学校システムとしてどのように進めるか、を説明する。</p> <p>(3) 個別に、あるいは学級、学年、学校全体を対象に、児童生徒を育て支える基本的な取り組み方について説明する。</p>		
授 業 の 概 要	<p>生徒指導は、学習指導と並び、学校教育に欠くことのできない教育機能と言われている。しかし、この言葉自体は、厳しいつけや問題行動への対応と受けとられることが多く、このような誤解が広く生じたままである。果たして、生徒指導とは何か？児童生徒の学業的、キャリア的、個人・社会的発達と適応はどのように理解されるのか？より実際的に、人はどのように生きる力を身につけ、自らの生き方を方向づけていくのか？この授業では、こうした生徒指導の理論、歴史、児童生徒の抱える困難(自己存在感の危機)、そして私たちがこれから挑戦しなければならない課題とその解決の方策について、基本的な知識・技能を学ぶ。さらに、これからの生徒指導の考え方と取り組みについて発展的、实际的に考察していく。</p>		
授 業 計 画	<p>第1回:これまでの生徒指導①「人格の完成」とは何か(学校教育における生徒指導の意義と原理)</p> <p>第2回:これまでの生徒指導② 生徒指導(概念)の誕生と教師の役割(生徒指導の発展史)</p> <p>第3回:これまでの生徒指導③ 学校教育という組織的取り組み(学校組織・教育課程における生徒指導の位置づけ)</p> <p>第4回:児童・生徒の抱える困難と対応① 不登校</p> <p>第5回:児童・生徒の抱える困難と対応② 暴力行為と非行</p> <p>第6回:児童・生徒の抱える困難と対応③ いじめ</p> <p>第7回:児童・生徒の抱える困難と対応④ 学業問題</p> <p>第8回:挑戦すべき課題① 学校教育の抱える問題と生徒指導の基礎・基本(適応と発達の促進)</p> <p>第9回:挑戦すべき課題② 育てる学級・学校づくり(風土の醸成と育てる活動のカリキュラム化)</p> <p>第10回:挑戦すべき課題③ 育てる2つのアプローチ(生徒指導の日米比較と学校・家庭・地域社会の役割)</p> <p>定期試験は実施しない。</p> <p>※Microsoft Teams を利用して講義資料・動画を提示、講義開講中にチャット・クラス会議で質問に回答。</p>		
成 績 評 価 方 法	<p>課題レポートを次のメールアドレス:hanaya@mailg.shumei-u.ac.jp に提出してください。</p> <p>課題レポート(100%)を成績評価の対象としますが、講義開講中のチャット・クラス会議へのコメント(コメントや発言など)を加味します。</p>		
テ キ ス ト	市販テキストは使用しない。毎回、オリジナルの講義資料を配付する。		
参 考 文 献	生徒指導提要(平成22年3月 文部科学省)(最新版)		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法			
受 講 学 生 に 望 む 事 項			
備 考	旧課程の生徒指導・教育相談Ⅰに対応。		